

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0370900441		
法人名	社会福祉法人 柏寿会		
事業所名	福光園グループホームやすらぎの家		
所在地	一関市真紫字爪木立43-96		
自己評価作成日	平成22年7月19日	評価結果市町村受理日	平成22年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370900441&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370900441&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目9番1号		
訪問調査日	平成22年8月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様お一人おひとりが満足した日常生活を過ごすことが出来るよう支援をしております。そのため共有空間である中、外でも過せる環境を創っています。  
生活場所はホームの外へと、催事、食事、故郷の行事、畑仕事、近隣の付き合い、居酒屋、買い物など社会との係わりを持つように出かけています。  
地域密着型を意識した取り組みとして、民区と共に暮らすため区費を納め、区の行事には出来るだけ参加をして、介護が必要になっても安心して生活が出来ている事も伝えています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

本年度から、利用者からの要望で、ホーム職員と、利用者が話し合う場を作り、利用者の生の声を聞き、日常のケアに活かしている。現在まで、2度開催している。法人と事業所でそれぞれ年2回ずつ職員会議、個別面談をして職員から意見を聞く体制が作られている。管理者は幅広い年齢の職員に対して助言、指導を心がけており、個性を活かした職員作りをしている。ケアの重点は「満足した生活」が送れるよう全員で取り組みが行われている。会話の中に思いやりが感じられ、居心地の良いホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	福光園の理念を基本として地域密着型サービスをふまえた理念を創り管理者と職員は日々の会話や会議などを利用して実践につなげています。	利用者の満足した生活に、重点をおいた理念に見直しをした。若い職員には、気付きを促す指導がされており、理念の中から自分なりの重点項目を捉えて、取り組みがされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区民・近隣の方々と共に暮せるよう、努めて職員が地域に入り、顔馴染みになり利用者様も交流できるように付き合いをしています。	買出しは毎日あり、交代で3～5人の利用者が同行している。散歩の途中に近所の家から、お茶の誘いがあったり、野菜を頂いたりしている。研修体験の高校生(年2回、4人程度)の1人が法人に採用されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に利用者様も参加し、利用者様の理解や接し方について自然な形で見て頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族様、行政、区長、民生委員、老人クラブの方々と1回/2ヶ月事業内容の報告について意見を聞いています。	利用者全員と家族、市介護保険課、区長等幅広い参加(協議内容によっては、消防も)であるが、ホームからの報告が主である。不審電話に対して、ナンバーディスプレイを使用しては、との助言があり改善をした。	報告になりがちな運営推進会議から、次回のテーマを示して検討をしていただいたり、意見の出しやすい会議へと工夫することを、期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や両盤ブロックグループホームの定例会などに出席を頂き、個人・全体のサービスなどについて意見を頂いています。制度上の考え方についても介護保険課に行き情報を頂いています。	運営推進会議のメンバーでもあり、連携はよく取られている。介護保険課には、ケアプラン作成の様式変更、福祉課では代行申請等の指導を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯の時間を除いて鍵は掛けていません。身体拘束の弊害は、職員は身をもってわかっていて、これからも拘束をしないケアに取り組んでいきます。	玄関含む4ヶ所にセンサーを取り付けており、早朝及び手薄な時間には利用している。法人で年2回(管理者以上)の研修を受けて職員に伝達している。法人内ホームと合同で拘束委員会を作り、月1回研修をしている。以前ベットの柵を使用した経緯がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が利用者様の事を一番に考えております。毎月1回合同委員会での報告を職員会議で行っています。職員間のコミュニケーションも大切にしています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に家族様と話し合いを持ったり、福祉課の方と制度について学ぶ機会を持ち、必要に応じて学ぶ機会を持っています。資料を活用して学ぶようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改定時は、契約書・重要事項説明書などで家族様に説明して納得を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で利用者・家族様から意見要望が話せる進め方に努めています。利用者様会議もおこない率直な意見が出せるようにしています。	本年度より、利用者様会議を開催し(不定期であるが2回開催した)意見を頂いている。食事(食べたい物)トイレの使い方、畑仕事、の要望が出て取り組みをしている。家族の意見は、来所時に受けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個別面談があり、その中で意見・提案を聞く機会を設けています。職員会議にも園長・総括が同席をして意見が聞けるようにしています。	個別面談による意見の聞き取り、提案の具体化がされている。法人でも安全について、介護用品の使用法の研修をしている。職員個々の希望する研修参加にも理解がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事評価があり、評価結果を本人にフィードバックして労使共に向上心をもって整備に努めています。私の提案を利用してやりがいにつながるようにもしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修に希望や指示で受けられるにしています。職員会議では自己研鑽も取り入れています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・両盤グループホーム定例会に参加して意見交換を行い質の向上に努めています。同時に交流会に参加してネットワーク作りにも努めています。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネ・管理者が自宅に伺い、本人・家族様から話を聴く時に業務中心にならないように心がけ、本人が安心して過せるためにイメージしながら、初期時の信頼に努めています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時期から信頼していただけるように、不安に思っていることや生活の様子がすこしでも観えるように接しています。導入後も困っている事が遠慮しないで話せるように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム見学や近況生活の様子をお話ししながら、心理面・環境面から、新生活にあたり第一の支援を見極めるようにしています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活は共に支えあうものと考えております。教えたり、教えられたりして共に必要である関係を心がけております。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活面での健康・通院・利用・外出・支援について、率直に話し合い共に支えあい、家族様もお世話をしている気持ちになれるよう努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が買物していたスーパーや病院などに行き、顔なじみの方と過せる時間が創れるようにしたいです。	通院時や、スーパーでの買い物時、知り合いから声を掛けられたり、フクちゃんハウス(同法人)と交流をしたりしている。遠方の家族とはハガキ、電話で近況を伝えている。行きつけの床屋、スーパーを利用する方もある。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士の席わりや利用者様が互いの部屋に行き過せるようにしています。利用者様同士で完結できるよう見守りをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も面会に行ったり、次の施設入居に対する情報提供を電話や入院先で支援を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦を教えて頂き、出来るものから支援を行っております。利用者様が今日は満足したと思える支援に努めています。	センター方式を活用することにより、会話から思いを推察出来たり、家族から協力を得たりして、希望の把握をしている。年1回ではあるが、全員で居酒屋でカラオケを楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やご本人、家族様から得た生活暦を把握してケアプランに生かすよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの評価や職員会議などで現状の把握を行い新しい支援につなげています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	評価から見えた支援や職員会議での新たな支援について本人・家族様や関係者からの意見を反映してケアプランを作っています。	利用者には、職員の担当があり、見直しの1ヶ月前にカンファレンスを行い、家族、民生委員等から意見を貰い、ケアプランを作成している。郵送、又は来所時に家族に報告をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録として残し、必要に応じて申し送りで職員間での情報を共有できるようにしています。その情報をケアプランに反映できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存サービスに捉われないように、職員が様々なニーズに対応出来なければならないと思います。柔軟に対応出来るように話し合いをして取り組んでいます。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店、理容、近隣、民生委員、民区、同業者などの地域資源を活用して安全で楽しく暮せるよう支援をしています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医としています。夜間緊急の時はホームの協力医の受診ができるよう支援しています。	かかりつけ医は全員がそれぞれ異なり、半分の方は家族が介助をし、4人の方はホームで支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態変化を見逃さないよう、バイタルは勿論歩行、表情、声、摂取量、排泄に気付き相談事については母体の看護師に協力を得ています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時にサマリーをで情報交換をお行い、利用者様が安心して治療が受けられるよう行っております。入院時は出来るだけ面会をしてかわりを切らないようにしています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になった場合の話し合いは、家族様と行っております。法人全体で支援するなどの情報も提供しております。	契約時ターミナルについての話はしていない。家族からの要望も現在はない。ホームとしては、医療利用の割合が大きくなったり、食事、入浴が困難になった時点を限界と考え、法人内での支援協力をする旨、家族に伝えている。職員の方針共有には至っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	予想される急変は、日常的に先輩職員から対応を話し合っています。全体としては普通救命講習を受けて訓練を行っております。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は定期的に行っております。新たに今年から地震に対する訓練を行うことしております。	本年7月地震を想定した避難訓練を日中に行ったが、地域と消防署の協力は得られなかった。12月にも避難訓練を予定している。法人として、平成23年までに消防署等への緊急通報装置の導入が計画されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を重んじた支援を心がけております。理念に「お客様の満足」のサービスが出来るよう日々、職員で話し合い共有しております。	ホームを1つの大きな家族として捉えているが、利用者に対しては、尊敬をこめて、「お客様の満足」を基本に、生活歴を重視して敬語で話す、思いやりをもって接する等、職員の意識共有、向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思で日常生活が出来るように、催事、買い物、家族の情報、季節の情報などを日常の会話から提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が思う生活が出来るよう見守りをしています。希望や思いの選択が出来る情報を提供しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を利用者様が選べるよう、季節の変わりめには家族様や介護員と一緒に整理を行っております。家族様とも相談をしておしゃれが出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好を取り入れ、買い物から介護員と一緒に行き、料理を作ることまで行っております。	昼食後翌日の献立を立てるが、買い物で変更もある。トロミ食には、ご飯をミキサーですりつぶした物を使用している。下膳は全員で、調理は4人の方が参加できる。年3~4回は全員で外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様が残さないで食べれる量、大きさ、別メニューを提供しています。摂取量は表を利用して1日の確保を確認しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に合った口腔ケアを実施しております。口腔研修を終えた介護員が利用者様の状況に応じ他介護員に伝えています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の意志を大切にしています。排泄表を見てトイレの案内などを行い、トイレでの排泄を尊重しております。	利用者さんの自立度が高く、日中は全員がトイレを使用している。夜間はポータブルトイレ使用3人、リハビリパンツ1人、パット3人、誘導2人である。チェック表にて回数、量、色等を確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす事を大切にしています。食材では繊維質や乳製品、水分などで工夫をしています。医療的には本人、家族様と相談して個々に応じての予防を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望重視で行っておりますが、声掛けも合わせて行い日にちをおかないように支援しています。入浴剤や、慣わしごともと入れております。	ホームとしての希望は3日に1回であるが、体調により、清拭、足浴、洗浄で対応している。昨年10月までは夜間対応があったが、現在は利用がない。入浴剤、菖蒲湯、ゆず湯等季節の慣わしを取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の意思を尊重しております。希望や状況からカーテンを設置したり、天井電灯の代わりに壁式に変えたりして工夫をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬をしないように、対策を講じております。突発での処方薬は副作用を介護員で共有して変化確認に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活を送ることを理念に掲げ、利用者様が自然と笑みが出て、その喜びが他利用者様にも伝わるような支援に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の支援を基本としています。時にはマイクロバスで全員での小旅行も行っております。気分転換に近隣を散歩して、少しの時間も大切にしています、	少しの時間でも散歩を心がけている。ゴミステーションまで、ホーム前のベンチまで、近所を歩くなど体調、天候で選択をしている。お盆中家族と墓参り(日帰り)に出かけた方あり。「職員が頑張れば何か出来る」を合言葉に、行動することが職員満足に繋がっている。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホームやすらぎの家

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にはご自分の財布を持つことで、安心感を持っているようです。使用したときは後で不安にならないように、領収書の写しを取っています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がいつでも掛けられる支援をしています。また、ハガキが届いたときや贈り物が届いた時はお礼の電話やハガキの支援しております。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	改修型のホームであるため、利用者様の家と大きく変わらない共有空間を提供しております。混乱を招かないように大きい表示をして支援しております。	表示はすべて、利用者さんの目の高さに合わせるなど配慮され、木目を活かした木の表札は落ち着いた感じがある。畳の小上がりは上履きでも上がれるようにコルク板が敷いてある。写真が展示され、神棚も祭られている。改修ホームであるが、随所に工夫の様子がみられる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを多く設置して、気の合った利用者様と過せるようにしております。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望する利用者様には、家から馴染みを物を持ってきています。利用者様と相談しながら、環境整備を行っております。	手芸の得意な方は作品を居室に沢山飾っている。家族との写真、旦那さんの写真、思い出に繋がった持込が見受けられ、思い思いの居室作りがされていた。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の生活様式に合わせた環境を崩さず提供しております。引き戸、蛇口、トイレ、浴室、扇風機など従来志向に努めています。			